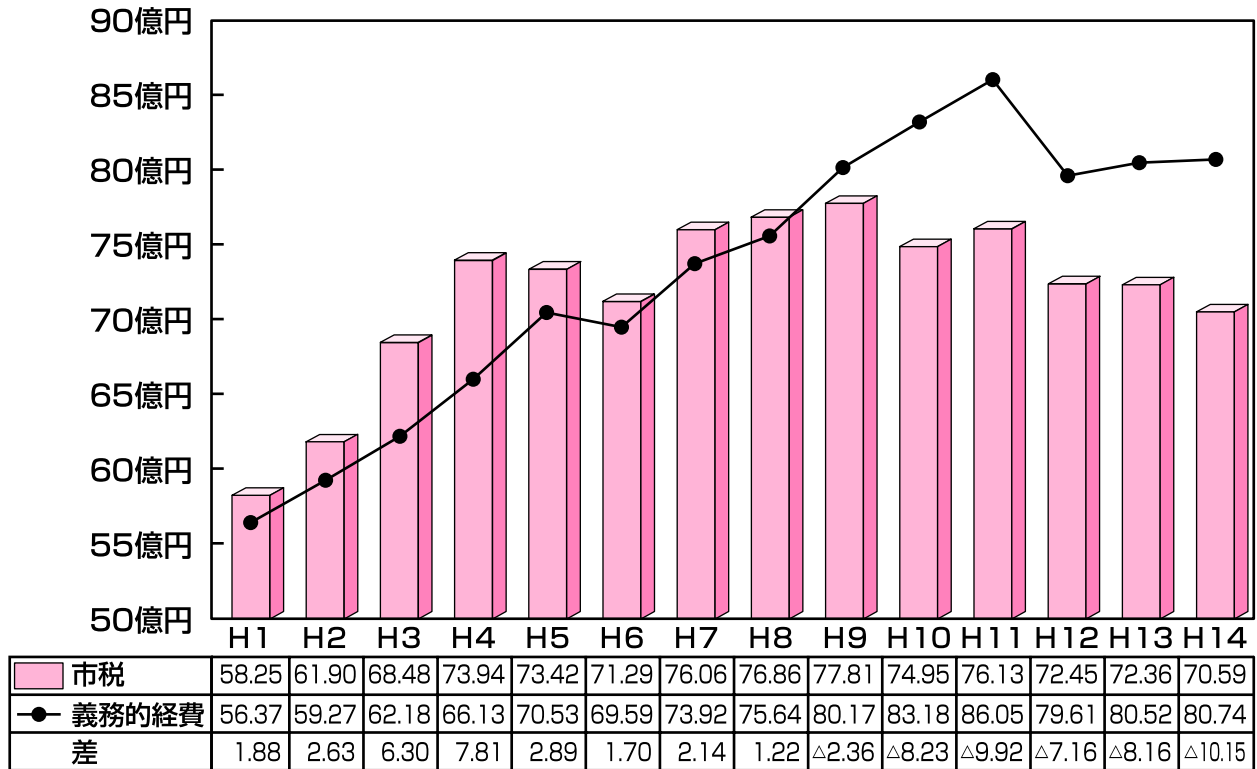


ポイント 2

- 市税が3年連続で減少しました。
- 義務的経費と市税の差が、過去最大となりました。

1 市税と義務的経費の推移



(1) 市税収入

- 過去14年間で少ない方から数えて4番目です。(過去10年間では最低です。)
- ピークである平成9年度と比較すると、約7億2千万円、9.3%の減少となっています。

(2) 義務的経費と市税との差

- 人件費・交際費・扶助費の合計である義務的経費が、平成9年度から市税収入ではまかなえなくなり、その差も平成14年度では、約10億1千万円となり、過去最大となりました。

※平成12年度から介護保険会計がスタートしたことにより、義務的経費が12年度は減少しています。

用語解説

- ※1 実質収支
歳入歳出差引額（形式収支）から翌年度に繰り越すべき財源を控除した決算額のことです。当該年度の収入と支出の差を示しています。
- ※2 財政調整基金
年度間の財源の不均衡を調整するために積み立てる基金のことです。
なお、毎年、決算剰余金について、その1/2以上の額をこの基金に積み立て、予算編成において歳入予算が不足する場合、この基金から繰り入れて予算編成を行っています。